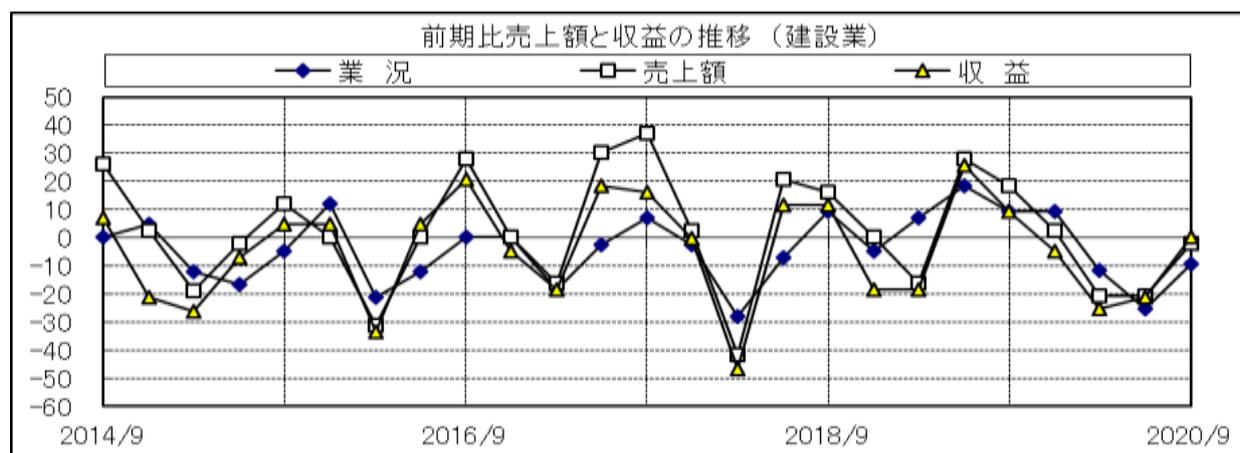


建設業 43 企業 (回答率 100.00%) の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
業 況	-11.6	-25.5	-9.3	-7.0
売上額	-20.9	-20.9	-2.3	-11.6
収 益	-25.5	-21.0	0.0	2.2

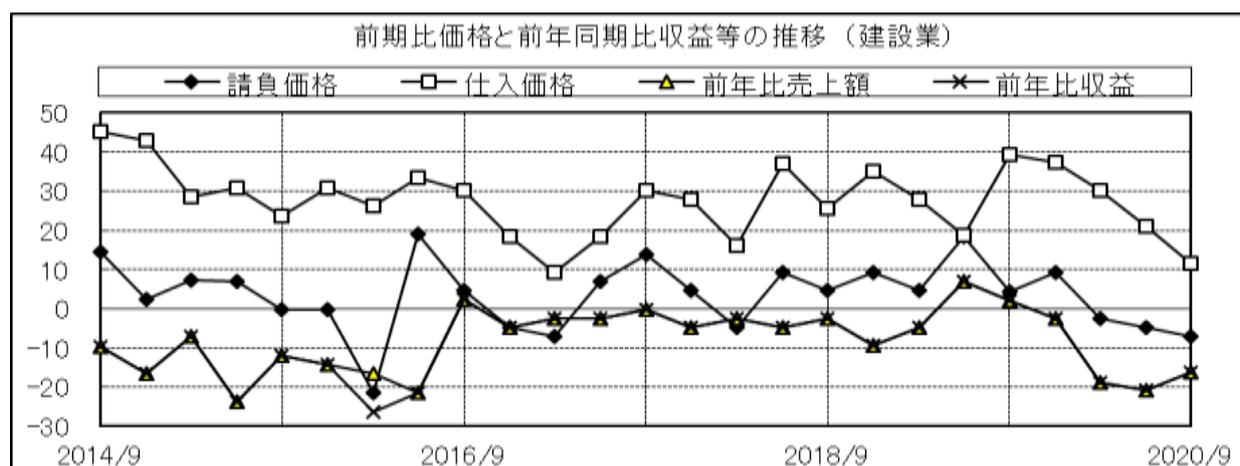
今期の業況判断 D. I. は $\Delta 9.3$ で、前期比 16.2 ポイント上昇、前年(9.3)比では 18.6 ポイント下降した。地区別 D. I. の水準は高い順に、様似が最も高く、広尾、浦河、えりも、静内と続き、三石が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は、 $\Delta 2.3$ で、前期比 18.6 ポイントの上昇となった。収益判断 D. I. は 0.0 で、前期比 21.0 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
請負価格	-2.3	-4.7	-7.0	4.7
仕入価格	30.2	21.0	11.7	16.3

請負価格判断 D. I. は $\Delta 7.0$ で、前期比 2.3 ポイント下降、前年(4.5)比 11.5 ポイント下降した。仕入価格判断 D. I. は 11.7 で、前期比 9.3 ポイント下降、前年(39.5)比 27.8 ポイントの下降となった。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
残業時間	4.6	-9.4	-9.4	4.6
人手状況	-16.3	-16.3	-21.0	-22.0

残業時間判断 D. I. は $\Delta 9.4$ で前期と同水準となり、残業時間の変動はなかった。人手過不足判断 D. I. は $\Delta 21.0$ で、前期比 4.7 ポイント下降し、人手不足感が強まった。

□ 設備投資の動き

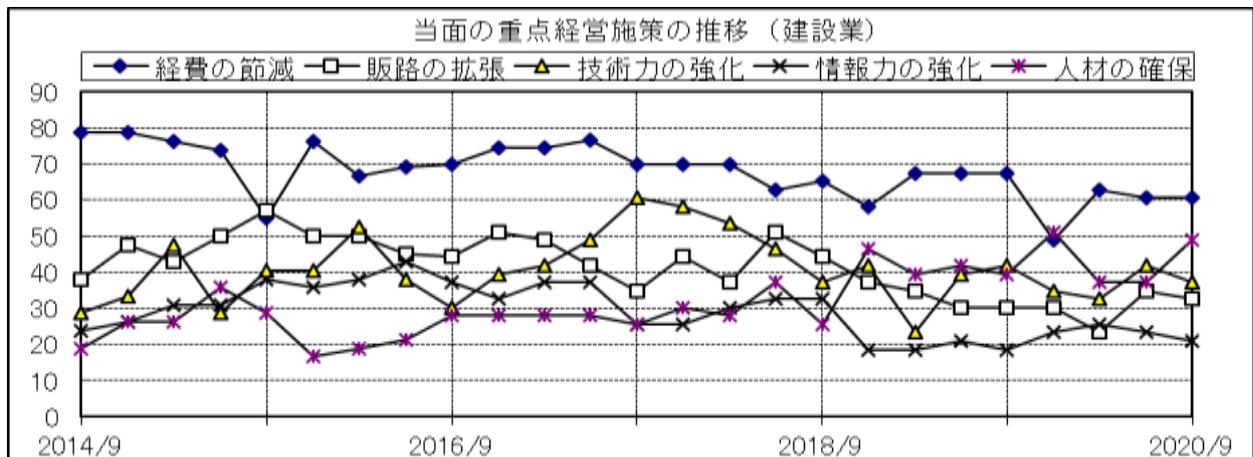
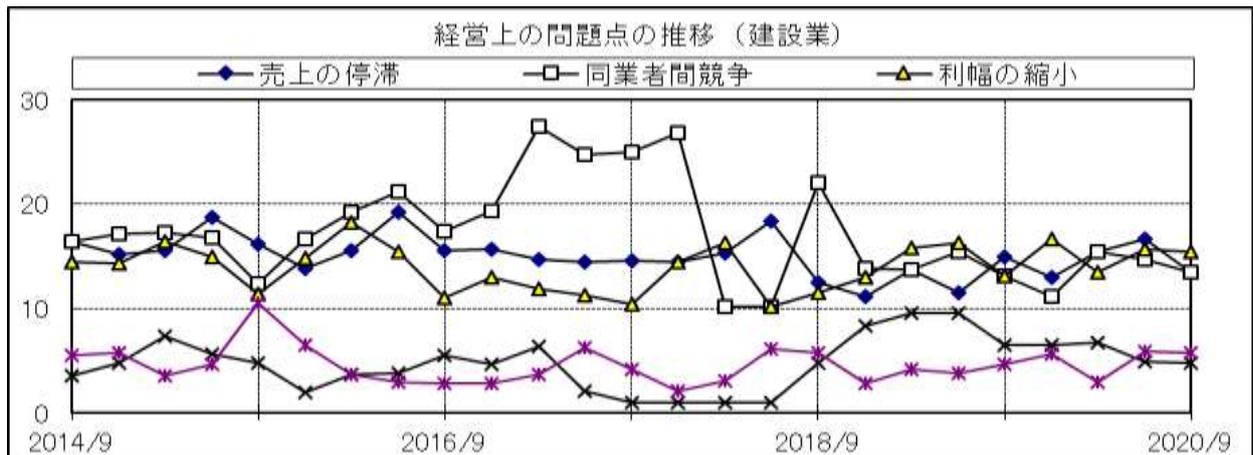
設備投資の充足感を示すD. I. は4.7で、前期(9.3)比4.6ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は23.3で、前期(11.6)比11.7ポイント上昇した。設備投資は、前期5社に対し、10社の実施となった。来期の設備投資は、7社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「利幅縮小」が15.4%と最も多く、次に「人手不足」14.4%、「売上停滞減少」・「同業者競合」が13.5%、「材料価格上昇」9.6%、「下請確保難」6.7%、「地場産業衰退」5.8%、「人件費増加」・「天候不順」が4.8%、「大手企業競合」・「技術力不足」が3.8%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」60.5%が最も多く、次に「人材確保」48.8%、「技術力強化」37.2%、「販路拡大」32.6%、「情報力強化」20.9%、「教育訓練強化」・「労働条件改善」が4.7%となっている。



□

□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は△7.0と、今期比2.3ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. は△11.6と、今期比9.3ポイントの下降を見通している。

予想収益判断D. I. は2.2と、今期比2.2ポイントの上昇を見通している。

予想請負価格判断D. I. は4.7と、今期比11.7ポイントの上昇を見通している。

予想仕入価格判断D. I. は16.3と、今期比4.6ポイントの上昇を見通している。

卸売業 8企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景況

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
業況	-62.5	-87.5	-50.0	-37.5
売上額	-75.0	-75.0	0.0	25.0
収益	-75.0	-62.5	12.5	12.5

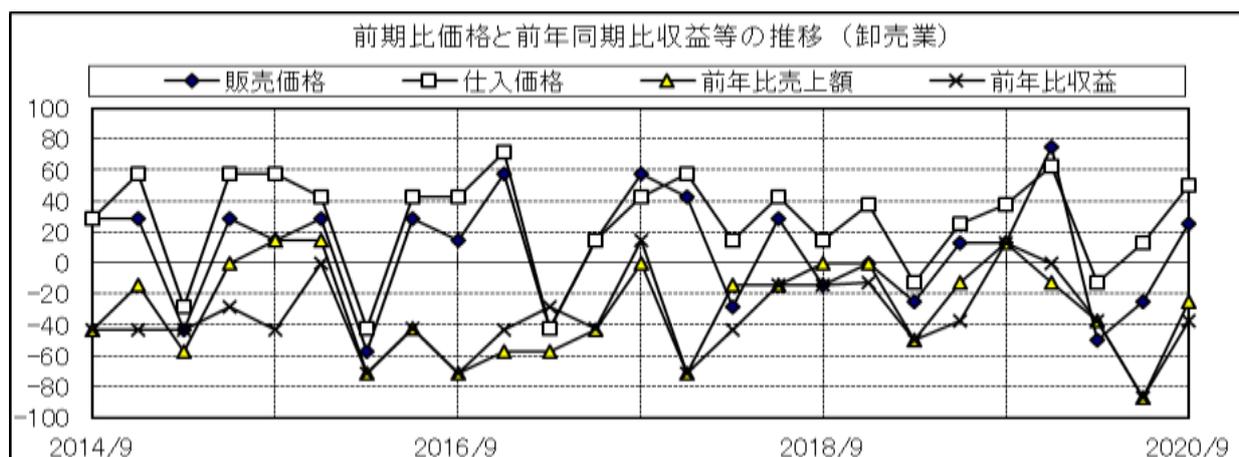
今期の業況判断 D. I. は△50.0 で、前期比 37.5 ポイント上昇、前年(△37.5)比 12.5 ポイント下降した。地区別の水準は、浦河・静内・様似全てが上昇した。売上額判断 D. I. は 0.0 で、前期比 75.0 ポイント上昇した。収益判断 D. I. は 12.5 で、前期比 75.0 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
販売価格	-50.0	-25.0	25.0	0.0
仕入価格	-12.5	12.5	50.0	12.5

販売価格判断 D. I. は 25.0 で、前期比 50.0 ポイント上昇、前年(12.5)比 12.5 ポイント上昇した。仕入価格判断 D. I. は 50.0 で、前期比 37.5 ポイント上昇、前年(37.5)比 12.5 ポイント上昇した。業種別では、水産業は販売価格が上昇、仕入価格は下降。食品業は販売・仕入価格上昇。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
残業時間	0.0	-12.5	0.0	0.0
人手状況	12.5	12.5	0.0	0.0

残業時間判断 D. I. は 0.0 で、前期比 12.5 ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は 0.0 で前期比 12.5 ポイント下降し、人手不足感が強まった。

□ 設備投資の動き

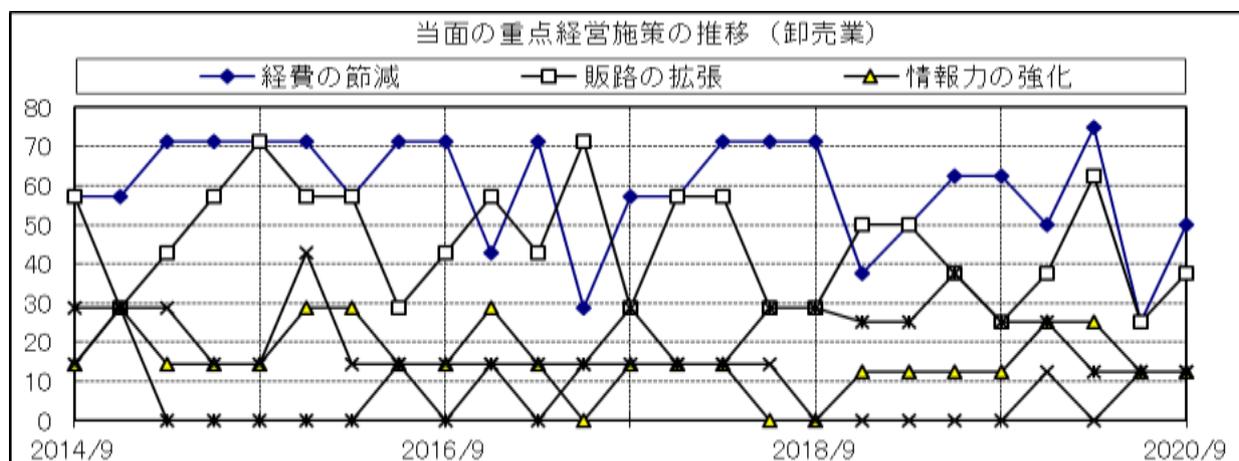
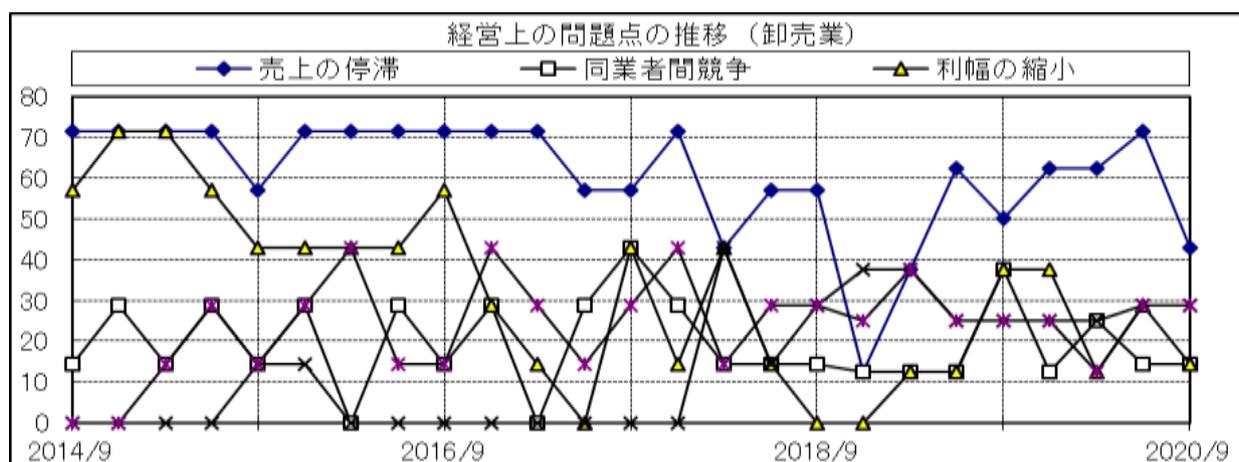
設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 12.5$ で、前期(0.0)比12.5ポイント下降した。

設備実施企業割合は12.5、前期(0.0)比12.5ポイント上昇した。設備投資は、前期0社に対し、実施企業は1社の実施となった。来期の設備投資予定は1社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」・「天候不順」が42.9%と最も多く、次に「人手不足」・「取引先減少」・「店舗老朽化」・「地場産業衰退」が28.6%、「同業者競合」・「輸入製品競合」・「利幅縮小」・「商品の陳腐化」・「為替レート変動」が14.3%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が50.0%と最も多く、次に「販路拡大」37.5%、「品揃え充実」・「情報力強化」・「新事業開始」・「連携先確保」・「人材確保」・「流通経路見直し」・「労働条件改善」が12.5%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 37.5$ と、今期比12.5ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. は25.0と、今期比25.0ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は12.5と、今期比と同水準を見通している。

予想販売価格判断D. I. は0.0と、今期比25.0ポイントの下降を見通している。

予想仕入価格判断D. I. は12.5と、今期比37.5ポイントの下降を見通している。